

コメント

1 マイコプラズマ肺炎

定点当たり6.83人の報告があり、多い状況が続いています。
小児を中心として流行する呼吸器感染症ですが、成人の報告もみられます。
長引く咳が特徴で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。
手洗いの励行、咳エチケットなど、感染予防対策を心がけましょう。

2 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)

定点当たり1.53人の報告があり、前週と比べるとほぼ横ばい
です。引き続き、基本的な感染予防対策に取り組みましょう。

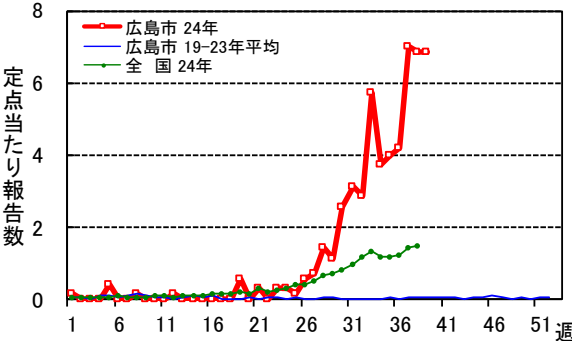
3 百日咳

今年の累計は14件となりました。(次ページ参照)

4 腸管出血性大腸菌感染症

今年の累計は25件となり、既に昨年の年間報告数16件を上回っています。夏から秋にかけて報告数が多くなる傾向があり、注意が必要です。感染予防のため、加熱が必要な食品は十分に加熱し、生野菜は十分に洗いましょう。また、調理の前、食事の前、トイレの後などは、せっけんと流水で手を洗いましょう。

マイコプラズマ肺炎の流行状況



定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均過去5年(注)	発生記号	急増減	前週と比較しておおむね
インフル	インフルエンザ	7	0.19	1.00		小児科	ヘルパンギーナ	3	0.13	1.01		急増	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
	新型コロナ(COVID-19)	55	1.53				流行性耳下腺炎	-	-	0.03		増減	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
	RSウイルス感染症	4	0.17	0.77		眼科	急性出血性結膜炎	-	-	-		微増減	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
	咽頭結膜熱	2	0.09	0.20			流行性角結膜炎	7	0.88	0.38		横ばい	ほとんど増減なし
小児科	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	43	1.87	0.95		基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-			
	感染性胃腸炎	61	2.65	2.23			無菌性髄膜炎	-	-	-			
	水痘	6	0.26	0.05			マイコプラズマ肺炎	41	6.83	0.03			
	手足口病	50	2.17	1.43			クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-			
	伝染性紅斑	-	-	0.09			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-			
	突発性発しん	4	0.17	0.26									

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ/COVID-19定点数(小児科定点を含む)	36
小児科定点数	23
眼科定点数	8
基幹定点数	6

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

全数把握感染症報告状況

類型	疾患名	報告数	累計	備考
3	腸管出血性大腸菌感染症	3	25	20歳代・O157・2人、30歳代・O157・1人
5	侵襲性肺炎球菌感染症	1	8	10歳未満
5	梅毒	4	122	20歳代・1人、30歳代・1人、50歳代・2人
5	百日咳	1	14	40歳代

■定点把握感染症報告状況(週報対象)の推移

			インフルエンザ	(C O V I D - 1 9) 新 型 コ ロ ナ	R S ウイルス 感 染 症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ 球 菌 咽 頭 炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺 炎	クラミジア肺炎	(ロタウイルス) 感 染 性 胃 腸 炎
報告数	広島市	第35週	9	163	20	4	25	67	-	99	1	4	6	-	-	4	-	-	28	-	1
		第36週	6	105	11	2	35	69	1	72	-	5	4	-	-	8	-	-	25	-	-
		第37週	2	79	2	6	36	69	8	59	2	4	8	-	-	10	-	-	42	-	-
		第38週	3	52	6	5	25	60	4	57	1	6	7	-	-	9	-	-	41	-	-
		第39週	7	55	4	2	43	61	6	50	-	4	3	-	-	7	-	-	41	-	-
定点 当 た り	広島市	第35週	0.26	4.66	0.91	0.18	1.14	3.05	-	4.50	0.05	0.18	0.27	-	-	0.50	-	-	4.00	-	0.14
		第36週	0.17	3.00	0.50	0.09	1.59	3.14	0.05	3.27	-	0.23	0.18	-	-	1.00	-	-	4.17	-	-
		第37週	0.06	2.26	0.09	0.27	1.64	3.14	0.36	2.68	0.09	0.18	0.36	-	-	1.25	-	-	7.00	-	-
		第38週	0.08	1.44	0.26	0.22	1.09	2.61	0.17	2.48	0.04	0.26	0.30	-	-	1.13	-	-	6.83	-	-
		第39週	0.19	1.53	0.17	0.09	1.87	2.65	0.26	2.17	-	0.17	0.13	-	-	0.88	-	-	6.83	-	-
	全国	第37週	0.52	5.24	0.59	0.28	2.06	2.88	0.13	8.05	0.21	0.27	0.71	0.04	0.01	0.46	0.03	0.05	1.44	-	0.01
		第38週	0.55	4.35	0.46	0.25	1.78	2.47	0.15	7.77	0.17	0.25	0.50	0.04	0.01	0.41	0.02	0.05	1.48	-	0.01

■新たに判明した病原体検出状況

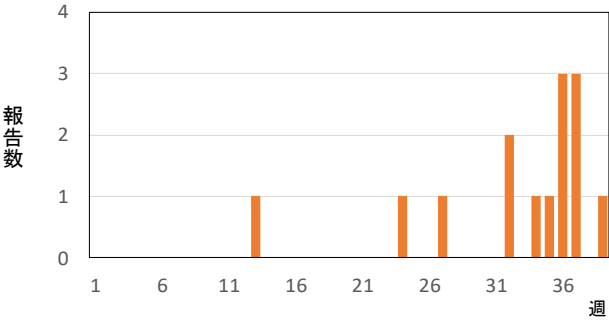
(検査: 広島市衛生研究所)

診断名	主症状	年齢	発症年月日	検査材料	検出病原体
手足口病	発熱(38.5℃) 紅斑 口内炎 咽頭炎 喘鳴	5	2024/06/25	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA16型 RSウイルス
ヘルパンギーナ	発熱(39.0℃) 口内炎 咽頭炎	9	2024/07/04	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
ヘルパンギーナ	発熱(38.6℃) 咽頭炎	0	2024/07/06	咽頭拭い液	コクサッキーウイルスA6型
その他の神経系疾患	麻痺	10	2024/08/06	咽頭拭い液	肺炎マイコプラズマ

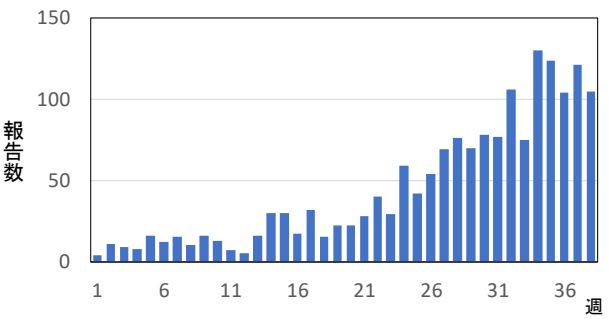
* 感染症発生動向調査に基づく病原体定点搬入分のみ掲載

【参考】百日咳の発生動向について

広島市の百日咳の報告数(2024年第1週～第39週)



全国の百日咳の報告数(2024年第1週～第38週)



百日咳の報告数は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の流行が始まった2020年以降、低い水準が続いていました。今年は、春から増加傾向となっており、全国では、第38週の時点で1,697件(速報値)と、既に昨年の年間報告数1,015件(速報値)を大きく上回っています。

百日咳は、百日咳菌によって起こる急性の気道感染症で、感染経路は飛沫感染と接触感染です。

7～10日程度の潜伏期間を経て、かぜ様症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなります。

肺炎や脳症などを合併することもあり、1歳以下の乳児、特に生後6か月未満の乳児は重症化のリスクが高く、注意が必要です。

予防にはワクチン接種が有効です。定期接種対象者は早めに接種を受けましょう。

【参考】

百日咳とは(国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/477-pertussis.html>



本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページでご覧いただけます。
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/infectious-disease/>



【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号
TEL (082) 277-6575 FAX (082) 277-5666 E-Mail ei-seikatsu@city.hiroshima.lg.jp